

9月・10月の管理ポイント

今年の夏は厳しい暑さが続いております。
 残暑対策を行い、芝生が回復しやすい環境を整えていきましょう。



高親水性土壤用界面活性剤

バイタルドロップ

高親水性のバイタルドロップは、散布時に葉の表面や浅い層の撥水性土壤に付着する量が少なく、深い層まで素早く届いて処理層を形成します。散布液が高濃度になる少水量散布でも高い効果が得られます。ドライスポットの予防と治療、どちらの目的でも使用できる利便性の高い土壤用界面活性剤です。

ドライスポットの予防 使用量：1ml/m²/月 散布水量100ml/m²以上

ドライスポットの治療 使用量2ml/m² 散布水量100ml/m²以上



自然な色調の着色剤

カラーメイトNEO M・D

カラーメイトNEOは、季節感を重視した自然な色調に仕上がる着色剤です。耐光性の高い顔料の粒子が鮮やかな緑色を演出し、耐水性の高い樹脂が色落ちを軽減します。色調の好みや目的によりM(明るい緑)とD(暗い緑)の2色から選ぶことができます。地温・葉温を上昇させることにより、春季の立ち上がりを促進します。

使用量：2ml/m² 希釈倍率：50~100倍 散布水量：100~200ml/m²



根の生育しやすい
 土壤環境を整えましょう

レボ

夏は台風やゲリラ豪雨などの短時間で大量の降雨が予想されます。レボは排水性が高く表層土壤の水分値を低めに保つため、過湿状態になりがちな梅雨時期にも気相をしっかりと保ちます。定期散布を行い根の生育しやすい土壤環境を整えましょう。土壤水分を高めに保ちたい場合はプライマーセレクト、発生したドライスポットの治療にはアクアダクトをご使用下さい。液肥などとのタンクミックスにはグリーンシナジーがおすすめです。

使用量：2ml/m²/月 散布水量：200ml~500ml/m² 散布回数：1ヶ月に1回~2回



土壤中の有害物質除去

光合成細菌

過湿状態の土壤中に発生しやすい硫化水素やメルカプタンなどは、イヤな臭いがするだけでなく根を痛めます。光合成細菌を処理して有害物質を除去しましょう。光合成細菌は硫化水素などを分解するだけでなく、他の有用微生物の餌となるアミノ酸やATP、ADP(高エネルギーリン酸化合物：補酵素)などを分泌し、有用な土壤微生物の住みやすい環境を作ります。サッチ分解剤と組み合わせると、サッチを効率よく分解できます。

使用量：1~2ml 10/m²散布 月1~2回



サッチの除去
 土壤環境の健全化

サッチクリーナー

サッチ成分のセルロース・ヘミセルロースを分解する酵素を主成分とした、酵素タイプのサッチ分解剤です。酵素そのものを散布するため即効性に優れており、サッチ分解量をコントロールすることが可能です。液剤であるため取扱いやすく、フィルターに詰まりません。農薬との混用や近接散布も可能です。梅雨入りまでに土壤の透水性や通気性を改善しましょう。土壤微生物のが活発な時期なので、微生物タイプのサッチ分解剤「サッチ・マネージャー」もおすすめです。使用量：グリーン0.2ml/m² ラフ・FW・Tee0.1-0.2ml/m² 散布水量0.2-0.50/m²



病害予防に

グリーンオキシラン水和剤

グリーンオキシランは有機銅とキャプタンが有効成分の防除剤です。着色剤入りで希釈液が緑色なので、散布した後の葉が黄色くならず、美観を損ないません。幅広い病害に効果があり、更新作業後の保護殺菌にお勧めです。

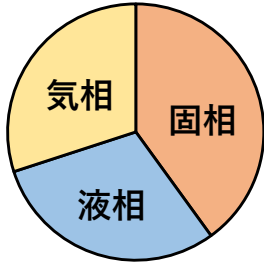
使用量：バントグラス_希釈倍率300-500倍 1-20散布/m² 日本芝 希釈倍率500倍 1-20散布/m²

芝生管理のマメ知識 第182号

土壌の三相分布のバランス

植物にとって、土壌中の空気と水のバランスは重要です。
 今回は、芝生の上からは見えない部分についてご説明します。

○ 三相分布とは？



固相

土壌粒子や動植物分解物など。粘土質であるほど高い割合となる。根の支えや養分保持に大きく関わる。

液相

水や水に溶けた養分を根に供給。USGAでは、雨などの水で満たされ自然排水後の水分値は15～25%が理想、と考えられている。

気相

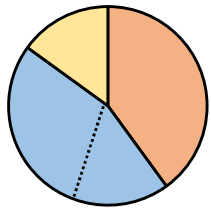
土壌空気の割合。大気と異なり酸素割合は低いが、植物の根や土壌微生物の呼吸において重要となる。

○ グリーンでの三相分布の変化



造成直後の砂質のグリーンでは、保水性は低いが、通気性に優れている。十分な空気があると、根は活発に伸びることが出来る (A)。

造成から数年後...



有機物（サッチなど）が土壌に溜まり、保水性が増す。ある程度のサッチは保水性に貢献するが、溜まり過ぎると、水が抜けにくくなり、根の生育不良や病原菌の発生につながる (B)。

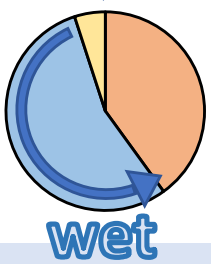


(A) 造成直後



(B) サッチ蓄積後

大雨が降ると...



wet



大雨が降ると、過湿状態になり、根は呼吸できなくなる。また、比熱の高い水は一度温まると熱が逃げにくくなる。

厳しい暑さが続くと...

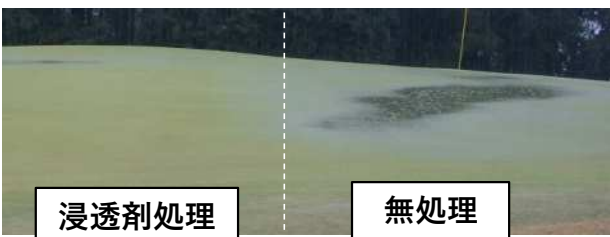


dry



一度乾いてしまうと、有機物は撥水し、散水しても水は入りにくい。植物にとって危機的な状況。

土壌浸透剤の散布

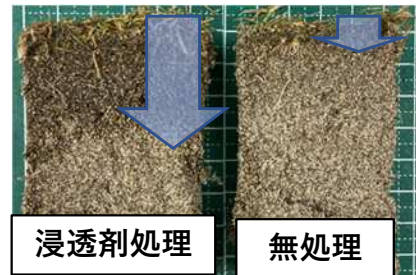


浸透剤処理

無処理

雨の直後の様子

左側では水たまりはほとんどない



浸透剤処理

無処理

水の浸み込みの様子

左側では水が深くまで浸み込んでいる

土壌浸透剤により三相をバランスよく整えることで呼吸の空気と十分な水分を確保し、良好な生育を促しましょう！

※なお、上記のような効果は浸透剤の種類により大小異なります。